

「遺骨郵送し納骨」高まる需要

三笠の霊園 昨年の2倍

【三笠】新型コロナウイルス感染症拡大を受け、遺骨をゆうパックで霊園に送る「送骨サービス」の需要が高まっている。市内の北海道中央霊園では4、5月の申し込みが昨年の約2倍で、同霊園は「移動や親族が集まることによる感染リスクを避けるため、利用する人が増えている」と話す。同霊園は高齢や遠方などの事情で埋葬に訪れるのが難しい親族のため、2014年に送骨サービスを始めた。永代供養付きの合同墓か樹木葬墓地を利用する場合が対象で、送料は無料。同霊園が段ボールを郵送し、遺骨を入れて送り返してもらう。納骨も無料

4、5月 コロナ外出自粛の影響で

で代行している。

近年の送骨サービスの利用は年間100件ほどというが、今年は4月30件、5月は25日までに35件と既に昨年の7割近くの申し込みがあった。高齢者や遠方の親族のほか、外出自粛の影響で比較的近い札幌や岩見沢などからも増えた。新型コロナウイルスの収束後に、霊園を訪れたいとの声が聞かれるという。

武田寛理事長は「感染予防での利用は想定していなかったが、役に立って良かった。お参りやお墓掃除の代行の申し込みも増えており、しばらくは続くのではないかと話す。

（石橋治佳）